

## 研究・調査報告書

| 報告書番号   | 担当                   |
|---|----------------------|
| 206   | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| <b>題名 (原題/訳)</b>  |                      |
| <p>Association of micro-opioid receptor gene polymorphism A118G with alcohol dependence in a Japanese population.<br/>日本人集団におけるマイクロオピオイド受容体遺伝子の A118G 変異とアルコール依存との関連</p>  |                      |
| <b>執筆者</b>  |                      |
| Nishizawa D, Han W, Hasegawa J, Ishida T, Numata Y, Sato T, Kawai A, Ikeda K.   |                      |
| <b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>  |                      |
| Neuropsychobiology. 2006;53(3):137-41.  |                      |
| <b>キーワード</b>  |                      |
| マイクロオピオイド受容体遺伝子 (OPRM1)、アルコール依存症  |                      |
| <b>要 旨</b>  |                      |
| <p><b>背景：</b><br/>エタノールは脳内の内因性オピオイド受容体リガンドを増加することにより快刺激を生じさせると考えられている。マイクロオピオイド受容体遺伝子 (OPRM1) A118G 変異は Asn40Asp のアミノ酸の変化を生じ、内因性オピオイド受容体リガンドと受容体の親和性に影響を与えると考えられている。この変異とアルコール依存症との関連は多くの集団で検討されてきたが、日本人集団では検討されていない。</p> <p><b>方法：</b><br/>ある地方の集団において OPRM1 の A118G 変異の頻度をアルコール依存症患者と健常者との間で比較した。また、アセトアルデヒドデヒドロゲナーゼ2遺伝子 (ALDH2) の G1510A についても検討した。</p> <p><b>結果：</b><br/>何れの変異もアルコール依存症と有意な関連を示した。この結果は、ALDH2 の 1510G 変異のみならず OPRM1 の 118G 変異もアルコール依存症に影響を与えていることを示唆している。</p> |                      |